

夢と意匠を詰め込んだ新拠点完成 次の時代の物流がここから始まる

9月24日、大塚倉庫の「西日本ロジスティクスセンター」(神戸市)が稼働した。フルラインのBCP機能を備えた医薬品の共同物流センターであると同時に、ショールームとしての役割を持たせたモデル拠点だ。同社の経営ビジョンを形にしたさまざまなアイデアが盛り込まれている。(進行役・本誌編集部)

ヤギとロボットがお出迎え

中国自動車道の神戸三田インターチェンジ至近地に、医薬品専用拠点「西日本ロジスティクスセンター」が稼働しました。

大塚倉庫 濱長一彦 社長「われわれが共同物流のオペレーションを効率化するために開発を進めてきた『ID倉庫』と『ID運輸』を導入したほか、当社を知っていただくためのさまざまな仕掛けをセンターの随所に盛り込みました」

敷地内の緑地にヤギが放牧されていますね。「社員ヤギ」のサブローとシローです。お客さまをお迎えして、スタッフを癒やすことが役目です。建物の受付には人型ロボット『Pepper』を配置しました。シローと呼んでいます。

今はまだ施設の案内やお客さまの質問に答えられるように教育している「研修期間中」ですが、だんだんと仕事にも慣れてきたようです。「またエントランス横の談話スペースには、

それぞれ『パッションの丘』『ロジックの丘』と名付けたオブジェを置きました。テーブルや書棚として利用したり、上に登ってみたりして、普段とは違う視線、違った姿勢を取ることで発想を切り替え、自由で豊かなアイデアが生まれてくることを期待しています」

物流センターとは思えない雰囲気です。

「どこにでもある倉庫にはしたくありませんでした。当社のショールームとしてお客さまに見ていただくことを意識しました。それと同時に、社内に対しても当社が決断した経



人型ロボットのPepperが受付&案内役。名前は「シロー」

営改革が正しかったこと、経営ビジョンの実現に向けたわれわれの本気度と成長への覚悟を示したいと考えました」

大塚倉庫にとって過去最大の投資となります。

「これまで当社は大塚グループの工場が集中する四国を中心に、工場隣接型の倉庫しか所有していませんでした。そのため2011年に就任したグループの創業家一族の大塚太郎社長(現会長)が経営を刷新し、外販の拡大を本格化するに当たり、当時営業本部長だった私は、消費地に自社倉庫を建ててほしいとお願いしました」

「ところが、投資はしない。仕事を取ってくるのが先だ」と耳を貸してもらえない。大手3PLはどこも消費地に豊富なアセットを

大塚倉庫株式会社 大阪支店 西日本ロジスティクスセンター



晴れた日はシンボルツリーを囲むベンチが格好のランチスポットに



敷地を取り囲む緑地帯を“社員ヤギ”のサブローとシローがそぞろ歩き



スタッフ間の壁をなくし、コミュニケーションを図りやすいレイアウトを採用



庫内オペレーションを見渡すことのできる最上階のプレゼンテーションルーム



「パッションの丘」と名付けたオブジェ兼ミーティングテーブル。最上段まで登ってもOK

【施設概要】

立地：兵庫県神戸市北区赤松台1丁目2番63号(中国自動車道・神戸三田ICより車で6分) 規模：敷地面積40,767.39㎡、延べ床面積31,144.47㎡ 構造：地上4階 柱RC/梁S造 基礎免震構造(免震ゴム78基) 竣工：2015年7月 設備：ピッキングルーム・毒薬庫・向精神薬庫・保冷库、両面トラックバス(7台+2台)、ドッグレバラー1基、荷物用EV(4.5トン)1基、垂直搬送機(1.5トン)3基、駐車場(トラック42台、乗用車40台)、72時間対応非常用発電設備、全館空調完備、全館LED照明

持っています。当社が業界ごとにメーカー物流を共同化する共通プラットフォーム戦略を進めようにも、借庫ばかりでは説得力がありません。倉庫もないのどう営業するのか、と何度も掛け合いましたが、頑として首を縦に振ってはもらえませんでした。「社長には物流業界の常識が分からないんだ」と、ずいぶん憤慨しました」

——「西日本」の完成で会長に一本返すことができましたか？

「むしろ逆で、今は反省しているんです。自社倉庫を建て「アセットありき」で営業していたら、改革などできなかった。空いているスペースを埋めるために、何でもいから仕事を取ってくるという、昔ながらの営業を続けていたはずですよ」

「それまで普通の物流子会社だったわれわれは、生まれ変わるためにまず営業にメスを入れました。明確なマーケティング戦略を立て、営業の頭の中身から改革した。その後、荷主の数が増えてくるとオペレーション改革に着手しました。そして外販比率が50%を超えて初めて自社倉庫を建てた。この順番が大事でした。営業のやり方次第でアセットの持ち方は変わってきます。そのことが当時の私は本当に分かっていたいなかった」

「それだけに『西日本』の稼働には感慨があります。ここからが新しい大塚倉庫の本当の始まりです。今後、当社は中部と関東にも共通プラットフォームの核となる自社センターを展開していきます」

